

## 【参考資料1】旧モーガン邸の3D立体CG模型の贈呈についての経緯

文教大学情報学部広内研究室では、ゼミナール生がインターネット上で稼動する3次元コンピュータグラフィックス（CG）の研究を行っています。これはVRMLと呼ばれるグラフィックス言語を用いて、Web上に3次元仮想世界を構築する最先端の研究です。VRMLとは、Virtual Reality Modeling Languageの略で、その日本語訳は“仮想現実モデル化言語”と呼ばれ、この言語を用いて構築された3次元グラフィックスは、通常のホームページに掲載することができます。その閲覧者は、画面に表示される3次元の仮想世界に入り込み、その世界と対話することによって、それがあたかも現実世界のように体験することが出来るのです。従って、デザイナーのアイデア次第で、種々の仮想世界、例えば建物、乗物、ゲーム世界などを構築することが可能で、インターネット上の「セカンドライフ」は、VRML等がその源流になっていきます。

広内研究室のゼミナール生は、このVRMLを用いて、2001年から毎年、高校キャンパス模型（湘南台高校、藤沢高校をはじめとして17高校）、江の島展望灯台、新江ノ島水族館、蒔田本陣（復元）を制作し、当該高校や団体等に贈呈してきました。今年度は、NPO法人「旧モーガン邸を守る会」によって保存運動が続けられている旧モーガン邸が、2度にわたる火災により焼失したことをゼミナール生が知り、その復興を陰ながら応援する目的で、Web上の電脳空間の中に旧モーガン邸を復元しました。

今回、1年以上かけて制作した作品が完成しましたので、「モーガン邸を守る会」様に贈呈することになりました。旧モーガン邸は、これまでの仮想世界とは異なり、現在、流行の兆しをみせている3D立体CGとして制作されていますので（3D立体の基礎となる技術は、文教大学広内研究室で開発されたもの：特許取得は今春確定予定）、迫力あるリアルな映像を楽しむことが出来ます。この3D立体作品は、贈呈式終了後、「はまぎんこども宇宙科学館」（横浜市磯子区洋光台）で、大型立体ディスプレイ装置を使用して常設展示される予定のほか、併せて従来のホームページ（HP）版も作成しています。HP版では、旧モーガン邸の解説や写真が付けられ、『旧モーガン邸へようこそーVRMLによる文化財の復元ー』というタイトルのもとで公開されます。

旧モーガン邸の仮想模型の掲載ホームページ（文教大学広内研究室のHP）

<http://www.bunkyo.ac.jp/~hiro/vrml/archives/morganHouse/index.html>

（3月6日以降、公開予定）

制作スタッフ 文教大学情報学部広内研究室

ゼミナール生 姉崎千尋、有賀里実、土原沙織、中村綾乃

担当教員 広内哲夫

監修者 旧モーガン邸を守る会 佐藤里紗氏